「御国が来ますように」パートⅠ

マタイ６：１０

堀田修一　２２・６・２６

先週、主の祈りの「御名が聖なるものとされますように（御名が崇められますように）」の深い意味を学んだ。主が教えられた次の祈りは、「御国が来ますように」である。この祈りは前の祈りと密接に関係している。神の御名が完全に聖別され、崇められるためには、最終的には、悪魔と罪の支配の代わりに御国（神の支配）が完成しなければならない。

Ⅰ「御国が来ますように」と祈るためには、御国の意味を正確に知ることが欠かせない。原語は、「あなたの王国（原語：王たる事、王位、王権、支配、統治）が来ますように」。原語の「あなたの王国」は、神が王であること、神はご自分の支配する王国を持っておられることを示している。神の御国が来て完成することを願うこの祈りは、偉大な神がご自分の王国（ご支配）を確立するために遠大なご計画を持っておられ、そのご計画はまだ途上にあり、やがて世の終わりの主の再臨のときに実現する事を認めている祈り。全世界の問題にも、個人の人生の問題にも神の国、神の支配による解決が来るように祈りたい。聖書は、神が真の王であることを明確に語っている。「主は大いなる神であり、すべての神々にまさって、大いなる王である」詩篇９５：３。

Ⅱ　なぜ地上のすべての人々が、神の前にへりくだり、素晴らしい本物の神を崇め、礼拝し、御名を広めるために毎瞬毎瞬を用いたいと思わないのか。

１．その答えは、人間の心にある罪（神との分離、神への反抗）のゆえであり、神の国に対決しているもう一つの国、悪魔の国、暗黒の国があるからである。人類の問題、人類の苦しみの根源を思わされる。キリスト者としての私たちの最高の求めは、神の御名に栄光が帰せられることである。しかし、そこから出発した瞬間、この正反対の勢力がある事実を悟る。悪についての聖書の次の教えを御聖霊は語られる→「この世の神（悪魔、サタン）が、信じない者たちの思いを暗くし、神のかたちであるキリストの栄光に関わる福音を、輝かせないようにしているのです」Ⅱコリント４：４。※証し：福音を伝えるとき、悪魔より強い御聖霊の働きを祈り求める時、偉大な神が働かれる。偉大な神が、最高の天使を造られたが、その天使が高ぶり神のようになろうとしたので堕落し悪魔となった。イザヤ１４：１２―１５。偉大な神は、悪魔より何倍も強いお方。その悪魔は、主の十字架の贖いにより、致命的な打撃を受け、人間を支配する座から引き下ろされ、追い出された→「今（主の十字架の贖いが成就する今）、この世に対するさばきが行われ、今、この世を支配する者（悪魔）が追い出されます（致命的な打撃を受ける）」ヨハネ１２：３１。主の再臨の時、最後の悪魔の神によるさばき、滅びも定まっている→「彼らを惑わした悪魔は火と硫黄の池に投げ込まれた」黙示録２０：１０。悪魔は、それを知っているので、最後のあがきとして、今、主を信じ、心に神の国、神のご支配をいただいているキリスト者を誘惑し、攻撃して来る。私たちは、悪魔より強い神の武具（礼拝、御霊によるみことば、神を信頼する信仰、祈り合う）で悪魔に勝利

できる。

２．神が造られた最高の天使が高ぶり神のようになろうとし、その天使が悪魔となった。それ以来、神と神の栄光と神の支配の国と神に敵対する悪魔の国（支配）の戦いが始まった。励ましがある！神は、恵みをもって、歴史の開幕から、次の恵みの事実を聖書で啓示されている。偉大な神は、悪魔の国、支配があるにもかかわらず、この世界の中にやがて御自身の国、支配を設立することを聖書全体で教えておられる。それとともに、悪魔がしばらくの間この世を征服し、人類はその支配下に置かれているように見えるが、全能の神は時満ちて御自身の権威を現し、この世とこの世の全王国を、やがて御自身の栄光に満ちた神の国へと変えることを聖書で約束されている。旧約聖書全体に、神の国、天国の到来の約束がある。

３．そして、決定的なあの歴史的時点、すなわち、主御自身がこの地上に来臨された（クリスマス）時代においても、神の国は、人々の心の全面に大きな比重を占めていた。バプテスマのヨハネはその良き知らせを説いて「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから」と言った。マタイ３：２。天国への備えをせよと語った。主イエスが宣教を始められたときも「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから」と言われた。マタイ４：１７。主イエスは、弟子達に、この神の国が、次第に、すみやかに来るように祈りなさいと教えられた。この主の祈りは、終末に至るまでの全時代のキリスト者にとっても、真理であり、必要な、最高の祈りである。神の国を次のように要約できる。神の御国の真の意味は神の統治、神の支配。神の御国は三つの面がある。①神の国は、ある意味ですでに来ている。主イエスが、地上に来られたとき神の国（支配）は到来した。「わたしが神の指によって悪霊どもを追い出しているのなら、もう神の国、神のご支配はあなたがたのところに（心に、主にある交わりの中に）来ているのです」ルカ１１：２０。この二千年間、世界中に神の国は広がっている。②神の国は、今、この瞬間、主を信じるすべての人の心と生活の中にある。神の国、支配は聖書を土台とする教会の中に、真のキリスト者すべての心の中に存在している。キリストは、神の民を統治されている。③神の国は、やがて、主の再臨の日に、確立する。その日は、人には、いつかは分からないが、確実に近づいている。主の初臨から「終わりの時」（ヘブル１：２）が始まっていると聖書にある。新約聖書は、AD１００年までに記されたが、新約聖書の多くの箇所で「万物の終わりが近づきました」（Ⅰペテロ４：７）「今は救い（再臨による完成）がもっと近づいている」（ローマ１３：１１）と言われている。それから、二千年経っている。主の再臨、御国の完成は、いつかは分からなくても確実に近づいている。「人の子（主）は思いがけない時に来る」マタイ２４：４４

Ⅲ「御国が来ますように」の祈りで、本日は、最後に、私たちの心の中に「御国が来ますように」と祈る意味を深めたい。※来週は御国の完成の意味で「御国が来ますように」と祈る意味を学びたい。主を信じ主を心の王座に迎え入れるという信仰は、自分が自分の人生を支配するのではなく、神が私たちの心を支配される新しい人生が始まるという恵みである。この恵みの旧約聖書での預言「あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を授ける。わたしはあなたがたのからだから石（頑固な罪）の心を取り除き、あなたがたに肉（真に正しく愛に満ちた神に支配していただく心）の心を与える」エゼキエル３６：２６。「新しい心」とは、神のご支配の中にある心。神の国は、主を信じる私たちの心に内住している。神の国は、まず、主を信じる人々の心の中に確立されるべきもの。主を信じている私たちの心の中

に、すでに神の国は実在している。感謝！しかし、私たちの心にある神の国、神のご支配は完成されていない。神の恵みで私たちの心に実在している神の国、神の支配は、私たちが自分の罪を悔い改めないでいると、いつの間にか、罪の原理に再び心が占領され、私たちの心から神の支配の領域を追い出してしまう。これまでの歴史が繰り返した国々の戦争のように、領土、支配の奪い合いとなる。ここに、主の祈りで「御国（神の国、神の支配）が来ますように」と祈り続けるべき理由がある。「御国が来ますように」と祈るとき、私たちは、自分の心において神の国、神のご支配（前後の繋がり：御名を賛美、みこころを喜ぶ心、感謝の心）がますます拡大する事を求めている。私たちの心が、汚れ、欺き、憎しみ、恨み、ねたみ、悪口、自分を神とし人を裁く高慢、あら探し、欲張り、不信仰、失望、不平、野心、自己中心から解放されて、神の愛を受け神と人を愛し、神をすべての支配者と認め、神により頼んで行けますようにと祈りたい。

祈り：私たちの心が、神の御心にいよいよ占領されていく時、御国が自分の心に実現しているのを経験させてください。神が私たちの心を支配され、人を支配せず、人からも支配されない者として下さい。